2. 【駐輪環境】基盤整備の考え方

- 本市では、現行計画において区内の駐輪場の収容台数目標 9,000 台を設定し、市営駐輪場の運営、鉄道事業者と連携した無料駐輪場の整備等を進め、必要な収容台数の確保を目指しています。
- 一方で、公共交通と連携した駐輪場が求められているなど、新たな方針の検討が必要です。

【現行計画】での駐輪対策 ●自転車駐輪場整備の考え方(現行計画) • 本市では「通勤」「通学」「買物」の場面にあわせて、鉄道駅での 駐輪場整備、買物先での駐輪場確保を推進。 【通勤】交通結節点における駐輪場の整備(通勤者向け) 【通学】交通結節点における駐輪場の整備(通学者向け) 【買物】まちなかにおける駐輪環境の向上 ②鉄道駅、電停での整備実績(有料/無料、駐輪場収容台数の別) 豊橋鉄道では、サイクルアンド ライドの無料駐輪場を各駅に設 置(一部の管理は豊橋市) 有料駐輪場は豊橋駅、 二川駅のみ。指定管理 者制度による運営 有料駐輪場(市営) 植田駅 無料駐輪場(市営・民営) ▲ 50~200台 200~500台 500台以上 ※渥美鉄道の台数は、豊鉄グループホームページより ■駐輪場の整備目標と整備実績 目標 9,000 台 目標 9,000 台 8.845 8.905 8.905 8.909 8.798 8,696 2.331 2 3 9 1 2.405 2,454 級 6000 742 742 742 742 675 % 3000 豊橋駅 二川駅 その他 H27 H28 前期 H29 H30 R2 後期

・豊橋駅、二川駅に放置規制区域を指定し、放置自転車の即時撤去を

に大幅に減少しました。(ときわ通など一部地区を除く)

含めた対策を展開し、現行計画策定時(H25)の台数から3割程度

動放置自転車対策の推進

【次期計画】での駐輪環境の方針(案)

【公共交通との連携】

イ

ル

駐

○公共交通と連携させるため、交通結節点などの駐輪機能の 強化を検討

- 赤岩□電停、南栄駅、大清水駅、二川駅、和田辻東 バス停では既に交通事業者と連携した事業を実施
- →自転車が近距離の交通手段として、駅やバス停など へのアクセス交通となるよう駐輪機能を強化 公共交通沿線の公共施設等の駐輪場の活用を検討
- ○宅地開発など新たな駐輪需要に対応した駐輪場の拡充な どを検討
- ・豊橋ミラまちなど鉄道沿線では宅地や商業地など開 発が進行
- →新たな需要に対して、既存の駐輪場が不足すること が懸念されるため、駐輪場の拡充など対応

○サイクリストや観光客など向けの付帯的機能を検討

- ・豊橋駅周辺で輪行するサイクリストに向けて、自転 車組立スペースを設置
- →他の場所でもサイクリストや観光客などに向けて、 自転車組立スペース設置などを検討

駐輪場が足りない最 寄り駅にこだわら ず、余裕のある一駅 先の駐輪場を利用す るなど、自転車利用 の選択肢の幅を広げ る取り組みも検討 ■一駅先の駐輪場 活用のイメージ

サイクルアンドライド を地域拠点の中心駅や バス停などからできる ように、利便性の高い 駐輪場を確保 居住誘導区域からの 自転車ネットワーク が、拠点駅の駐輪場 に安全につながる環 境を整備

ま ち な か 駐

輪

の

方針

を作

【まちなかにおける駐輪環境の向上】

〇限られた都市空間の有効利用

- 子育て世帯や高齢者など地下駐輪場へアクセス困難
- →民間施設の空地や公共空間を活用した小規模駐輪場の分散配置

〇商店街·発展会などの団体と連携

- ・まちなかへの来街や居住を促進し、回遊性を高めるストリートデザイン 事業を実施
- →ストリートデザイン事業で生み出される利活用空間への店舗前駐輪

○駐輪施設整備等の誘導

- ・ 多くの駐輪需要は施設にて発生
- →再開発事業などにおける駐輪施設整備の要件化

【他都市事例】八王子駅商店街

※営業時間に応じて、商店街が店舗先に駐輪 ラックを設置する運用

八王子市サインラックによる駐輪対策事例